

智頭町総合戦略 Action Program

アクションプログラム

日本全体が超高齢化社会を迎えようとしている中、本町のような中山間地域では、過去に類を見ないスピードで少子高齢化が進んでいます。その結果、集落や地域といったコミュニティの活力失われ、文化や伝統の継承やコミュニティ自体の存続が危ぶまれています。そこで、人口減少に対応するために、魅力的かつ安心して暮らせる環境を整備し、持続可能なまちづくりを進めるべく、

智頭町総合戦略を策定しました。

今まで培ってきた住民力、地域力を元に策定したこの戦略によって、先人達が築き上げてきたこの町がますます光り輝き、「地方創生」のトップランナーを担うことができるものと確信しております。将来を担う子ども達が智頭町を誇れるよう、智頭町で暮らす人がずっと住み続けたいと思えるよう、全力で取り組んで参ります。



智頭町長
寺谷 誠一郎

智頭町が目指す姿

智頭町らしさ

●日本ゼロ分のイチ 村おこし運動

地域の魅力と活力を維持、拡大するために住民自治力を高め、また、住民による外部との交流を促進するための取り組み。



●百人委員会

単なる政策提言に終始せず、予算化を行い委員自らが実行する取り組み。

更なる挑戦

●持続可能なまち

本町は関西圏への交通の利便性が向上し、都会に近い便利な田舎として認識され、近年移住者が増加しています。今後も、出会い、結婚、出産、子育て、そして最期を迎えるまでの包括的な施策を展開し「持続可能なまち」となるために挑戦していきます。



将来像

●林業・農業を軸とした 町民が主役の 魅力あふれる元気なまち

平成22年度に第6次智頭町総合計画を策定し、「林業・農業」「町民が主役」「元気」をキーワードに、目指すまちの将来像を「林業・農業を軸とした町民が主役の魅力あふれる元気なまち」と設定。さらに、総合戦略の将来像として「挑戦」というキーワードをかかげています。



林業・農業を軸とした町民が主役の

挑戦し続ける元気なまち

図の見方



施策の具体的な方向性(方針)を説明しています。

目標達成に向けて実施する具体的な事業の内容を説明しています。

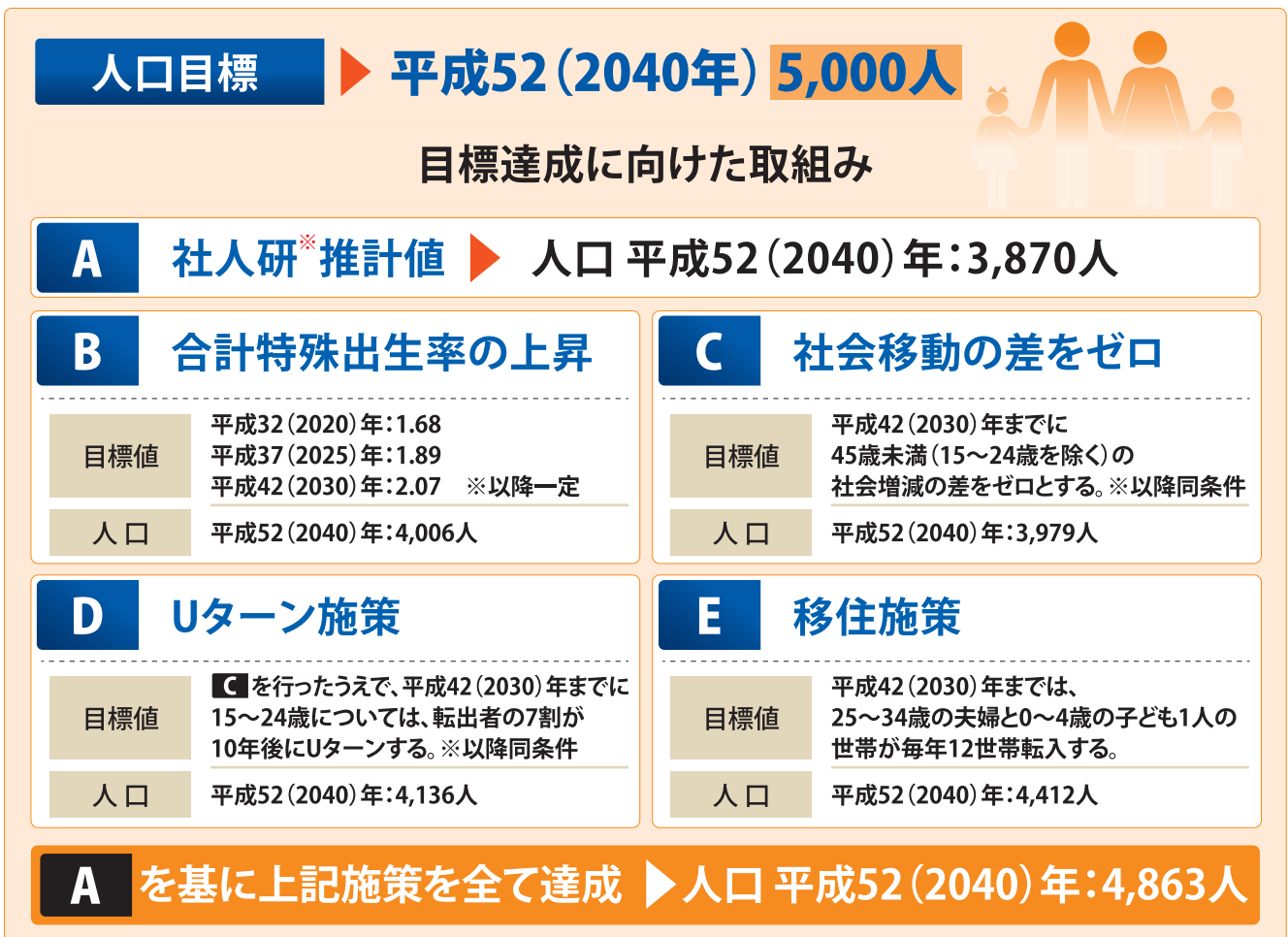
施策事業名、関係課を示しています。

施策事業に関する平成31年度までの数値目標を設定しています。

施策事業の推進に際しての町民と行政との役割分担を示しています。

人口ビジョン

前述の人口推計及び人口動向を考慮し、今後本町が目指すべき将来の人口目標を、国や県の推計を勘案し、以下のとおりとします。



※社人研 国立社会保障・人口問題研究所

将来像の実現に向けて

施策

関係課

1

「育みの郷」

森林を育みの場に！出産の喜びを

実施方針

森林に囲まれた環境で出産の喜び、子育ての素晴らしさを感じることができる受け皿体制を整備します。

目標 (KPI)

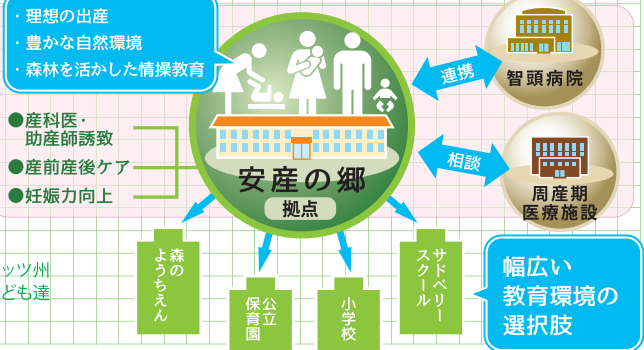
平成31年度まで

- ▶ 雇用の創出 **3人**
- ▶ 町内出産数 **6人/年**
- ▶ 移住者数 **120人**

具体的な事業内容とイメージ

- 周産期医療施設と相談し、智頭病院との連携を図りながら、「幸せなお産」ができる産科医院を誘致。
- 妊娠時から出産まで、胎児と妊婦、子育てだけではなく、日頃から女性の体をケアする包括的な体制の整備。
- 森のようちえん、新田サドベリースクール※(土)等の森の教育環境の支援。

※サドベリースクール(サドベリー・バレー・スクール(アメリカ・マサチューセッツ州 フラミンガム)を参考にした、先生・カリキュラム・テスト・評価のない学校、子ども達の好奇心に沿った遊びや体験から学んでいく学校のこと。



役割分担

町 民 (事業所、地域、団体等)

- 拠点施設の運営、維持管理
- 女性の体をケアする研修会等参加

行 政 (町、県、国)

- 拠点施設整備

施策

関係課

2

「自伐林家」

若者と共に林業の原点を

※おもに自分の持ち山で、伐採

実施方針

自伐型林業に取り組む若手自伐型林家や移住者が、山林を所有していなくても林業を生業にできるよう、フィールドとなる山林を山林バンクに登録し、山林を有効に活用できる支援体制をつくる。

目標 (KPI)

平成31年度まで

- ▶ 林業経営体 **50経営体**
- ▶ 雇用の創出 **15人**

具体的な事業内容とイメージ

- 自伐型林業に取り組む若者や移住者に町有林を無償提供する。
- 私有林の地上権(間伐・伐採木収益)利用可能地を募集し、「山林バンク」に登録する。
- 町有林及び登録した山林を自伐型林業に取り組む若者や移住者に斡旋し、間伐を実施。間伐に対する補助金や間伐木売却による収益は実施者が得る仕組みとする。
- 自伐型林業を生業として生活していくため、冬期業務の創出を支援する。(半林半Xを実践するための助言、関係機関との連携を支援)



役割分担

町 民 (事業所、地域、団体等)

- 森林所有者：山林提供
- 地域+住民：不在森林所有者情報提供
- 地域+住民：間伐が必要な森林の情報提供

行 政 (町、県、国)

- 町：山林バンク運営、提供山林の基礎調査、森林所有者と自伐型林家のマッチング、自伐型林家への助言

将来像の実現に向けて

施策

関係課

3 「林業の郷」

実施方針

過度な機械化を避けることで低コストを図り、間伐における収益増加を目指す自伐型林業を推進するため「自伐型林業研修」を開催する。
間伐による木材生産のみではなく、改めて森林生態、特用林産物、キノコの種類、キノコ栽培、狩猟、養蜂等、森林の持つ機能を体験し有効に活用していく総合的な「林業塾」を開催する。

目標 (KPI)

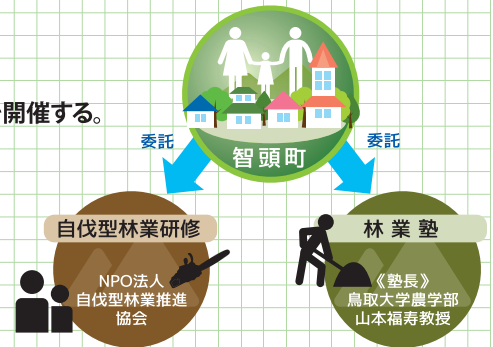
平成31年度まで

▶ **林業従事者 5人**

▶ **雇用の創出 3人**

具体的な事業内容とイメージ

- ① **低コスト化を図る「自伐型林業研修」を実施する。**
西日本でも著名で自伐型林業を実践している方を講師に招き、チェーンソー、伐倒・搬出、森林経営・作業道開設研修を実施する。
- ② **木材生産のみならず森林の恵みを体験し有効活用する「林業塾」を開催する。**
[開催時期] 春(5月)、夏(8~9月)、秋(10~11月)、冬(2月)
[講義内容] 森林生態、造林、森林施業、森林動物、菌類、木材利用、特用林産物等
[実習]
基礎: 植物の種類、キノコの種類、冬山実習(スノーシューなど)等
技術: 植林、間伐、枝打ち、育苗、林業機械操作、作業道開設等
生活実践: 薪割、炭焼き、キノコ栽培、ナッツ栽培、メーブルシロップ作り、山野草採集、狩猟・解体、養蜂、養魚、昆虫、野外調理等
[塾生定員] 15~20名/年



役割分担

町 民 (事業所、地域、団体等)

- 町民: ①自伐型林業研修 ②林業塾への参加
- 林業関係者: ②林業塾における講師として参画

行 政 (町、県、国)

- 町: ①自伐型林業研修委託契約 ②林業塾委託契約 委託先との実施協議・調整

施策

関係課

4 「疎開と癒し」

実施方針

ストレスから解放!
都会から田舎へ、人の流れを変えよう。

目標 (KPI)

平成31年度まで

▶ **森林セラピー導入企業 16社**

▶ **民泊参加 56軒**

▶ **村泊参加集落(地区) 5集落(2地区)**

▶ **雇用の創出 16人**

具体的な事業内容とイメージ

- ① 集落・地区の維持運営のための収益事業の一環として宿泊施設の運営を行う。
- ② 事業賛同集落及び地区の確保。
- ③ 集落地区内にある空き家を探し、集落運営の中長期滞在施設として改修。
- ④ 収益を上げることで、集落及び地区内の雇用創出、また福祉施策への展開も想定可能。
- ⑤ 新たな新規ビジネスの支援等



役割分担

町 民 (事業所、地域、団体等)

- 事業の内容把握と理解
- 受入体制の整備

行 政 (町、県、国)

- 事業賛同集落及び地区の選定
- 施設整備及び受入体制整備のサポート

将来像の実現に向けて

施策

関係課

5

地域資源を



実施方針

ちづ町産：ちづ町発→ちづ町行(地域循環)

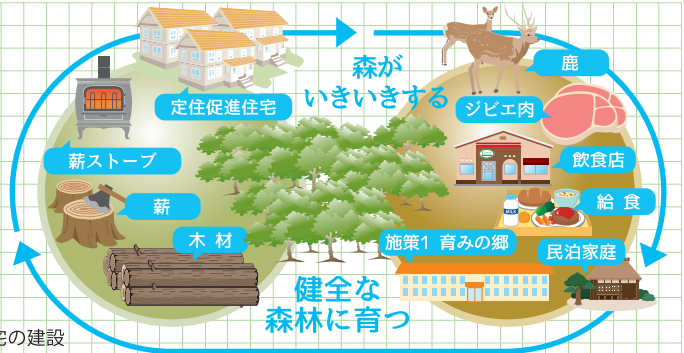
目標 (KPI)
平成31年度
まで

- ▶ 智頭材使用住宅 10棟
- ▶ 雇用の創出 5人

具体的な事業内容とイメージ

- 住宅改修費助成事業
- 住宅支援事業(定住促進対策事業)
- 宅地取得助成事業(定住促進対策事業)
- 家庭用薪ストーブ設置助成
- 町産材住宅建設支援事業
- 定住促進住宅の建設
- 智頭杉モデル住宅整備事業
- 獣肉処理施設設計委託料
- 新規ハード事業

若者と高齢者が生活することで、多世代交流が可能となる住宅の建設



役割分担

町 民 (事業所、地域、団体等)

- 森ノ学舎 ● 木の宿場実行委員会 ● 町内木材製材・加工業者
- 森林組合 ● 仙塾(そまじゅく) ▶ 木材搬出・流通
- 獣害対策部会 ● 猟友会 ▶ 解体施設運営
- 獣害対策部会 ● 猟友会 ▶ ジビエ肉提供

行 政 (町、県、国)

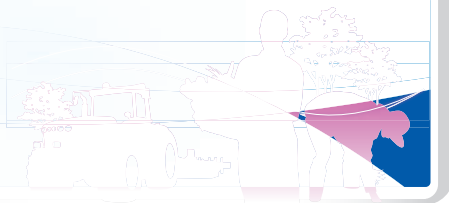
- 循環システムの構築 ● 木材流通等の補助
- 薪ストーブなどの導入促進補助
- ジビエ肉ブランド化 ● ジビエ肉給食提供

施策

関係課

6

本物の農産



実施方針

環境循環型農業を実現!

自然栽培農業者の育成をサポート

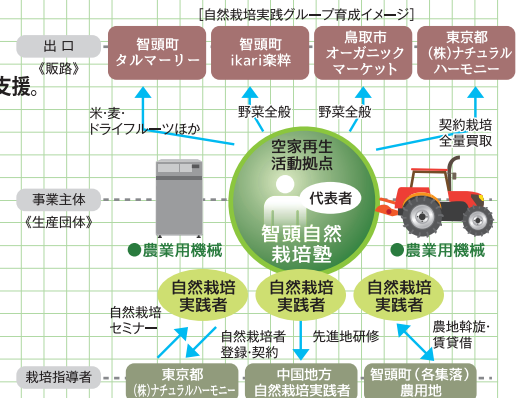
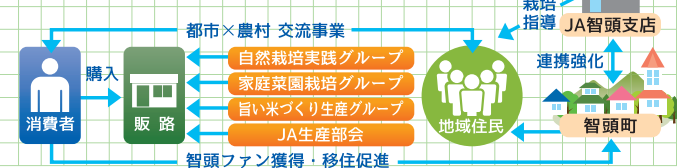
農業や肥料を使用しない、自然の摂理に寄り添う自然栽培農産物の生産及び販路開拓を支援し、環境にも健康にもやさしいホンモノの農産物づくりを実践する体制整備を支援します。

目標 (KPI)
平成31年度
まで

- ▶ 自然栽培実践者の育成 10人
- ▶ 農産物の新たな販売先 3社

具体的な事業内容とイメージ

- 智頭町内の空家を自然栽培農業者の活動拠点として貸与し、県外(町外)からの実践者を誘致する。
- 農業経営に必要な農業用機械及び農閑期の生業となる食品加工機を導入し、活動を支援。
- 自然栽培の理念と生き方を学習するセミナー及び先進地(実践者)の元での体験研修会を実施する。
- そのほか、自然栽培以外においても智頭産農産物のブランド価値の向上と販売促進に繋がる活動を支援する。
- 農産物を媒介とする都市と農村の交流促進を図る。



役割分担

町 民 (事業所、地域、団体等)

- 農産物の生産及び販売を通じたブランド化推進
- 他のモデルとなる農業生産体制の整備及び活動

行 政 (町、県、国)

- 自然栽培実践塾(仮称)の設立支援 ● 農産物の販路開拓支援
- 移住者と地域住民との調和及び自然栽培に対する地域への理解訴求

将来像の実現に向けて

施策

関係課

7 図書館を中心としたまちづくり

実施方針

「智恵と和の広がる図書館」をコンセプトに多世代交流や町内の文化・芸術の発表及び展示も可能な図書館を目指します。子どもも大人も気軽に図書館に立ち寄り、本を通じて「読む」「学ぶ」だけでなく、「感じる」ことができる場を創出します。

目標 (KPI)
平成31年度まで

- ▶ 1人当たり個人貸出冊数 (現状) 4.5冊/年 → **8冊/年**
- ▶ 入館者数 (現状) 図書館の把握実績なし → **年間16,000人**

具体的な事業内容とイメージ

- 「新図書館建設を含めた周辺環境整備」



役割分担

町 民 (事業所、地域、団体等)

- 新図書館開館へ向けた事業への参加
- 新図書館運営への参加 (ボランティア含む)

行 政 (町、県、国)

- 新図書館建設事業
- 新図書館開館へ向けたにぎわい創出事業
- 新図書館建設後の周辺環境整備

施策

関係課

8 公民連携事業

実施方針

公共事業に限らず、公民連携の可能性を調査し、効果があるものについては実施。

目標 (KPI)
平成31年度まで

- ▶ 平成31年度末までに **2事業**

具体的な事業内容とイメージ

- 大学、金融機関等と連携した公民連携事業の可能性調査
- 公民による研修会の実施
- 民間との連携が必要な事業については積極的に検討し、実施



役割分担

町 民 (事業所、地域、団体等)

- 公民連携事業の可能性調査
- 研修会の実施
- 公民連携事業実施

行 政 (町、県、国)

- 公民連携事業の可能性調査
- 研修会の実施
- 公民連携事業実施

将来像の実現に向けて

施策

関係課

9

起業・創業及び企業事業拡大に向けた資金確保の推進

実施方針

智頭町に定住目的でUターン、Iターン、Jターンする人または、既に定住している人が新たに起業・創業を目指すために必要なプロセスを示し、資金確保システムを構築して、起業・創業し、見通しが出来る体制作りを行う。銀行等と連携し、既存企業事業拡大フォロー体制を構築する。

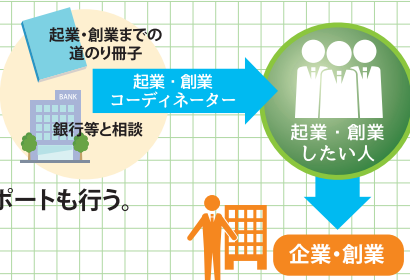
目標 (KPI)

平成31年度まで

- ▶ **起業・創業数 (現状) 13社 → 20社**
- ▶ **雇用の創出 (現状) 新規事業のため実績なし → 10人**

具体的な事業内容とイメージ

- **起業・創業までの道のり冊子作成。**
起業・創業のために必要なプロセスについて、冊子にまとめ、起業・創業に関心のある人に示し、起業・創業への不安を取り除く。→移住相談の時に配布
- **起業・創業コーディネーターを設置する。**
- **銀行等と連携し、起業を目指す人への資金確保体制を構築する。**
また、起業・創業後のシミュレーションを示してもらい、起業・創業後のサポートも行う。
- **既存企業にヒアリングを実施し、必要なフォローを行う。**



役割分担

町 民 (事業所、地域、団体等)

- 鳥取銀行・山陰合同銀行・鳥取信用金庫・JA・商工中金
資金確保のための相談業務

行 政 (町、県、国)

- 起業・創業のためのプロセス冊子作成
- 起業・創業コーディネーター育成・設置

施策

関係課

10

智頭町ファンづくり

実施方針

主に都市圏に住む人を対象に、智頭町を訪れてもらう仕掛け作りを行い、智頭町のファンになってもらう。

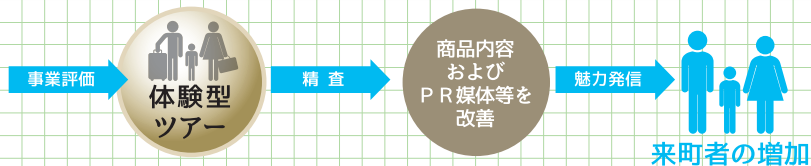
目標 (KPI)

平成31年度まで

- ▶ **平成31年度末までに本企画を通じて 300人来町**

具体的な事業内容とイメージ

- **体験専門サイトを運営する企業と連携し、交流人口の増加につながる旅行体験ツアーの企画運営**



平成27年度に行っている体験型ツアーの事業評価を行い、精査し、商品内容およびPR媒体等を改善する。毎年度上記を繰り返し、ニーズにあった智頭町の魅力を発信し、来町者の増加を目指す。

役割分担

町 民 (事業所、地域、団体等)

- 商品力の更なる向上
- 商品力アップのための勉強会

行 政 (町、県、国)

- 旅行体験ツアーの造成
- 観光協会での旅行体験商品造成

将来像の実現に向けて

施策 関係課 11 出会いの場

実施方針 豊かな自然の中で出会いの場として「恋活」を企画します。本町で出会い、後に結婚に至ることで、本町が思い出の場となり、ふるさとなることで移住者の増加を目指す。

目標 (KPI) 平成31年度まで
 ▶ 恋活企画数 **6回/年**
 ▶ 移住者数 (県外) **10名**

具体的な事業内容とイメージ

- おせっ恋セミナー (仮)
 智頭町では婚活イベントとしていなざぎ振興協議会の「本気の婚活」、クローバーの会の婚活イベントを開催している。このイベントを開催する前後に恋愛等に関するセミナーを開催し、参加者に「どうやったら相手に好感度を与えることができるか?」や、カップルが成立してからの「デートの楽しみ方」など、本人達にとっては本当におせっかいになるような事まで学習させ、「人が恋に落ちてから結婚に至るまで」をおせっかいでサポートする。
- 4町婚活イベント
- おせっ恋セミナー

役割分担

| | |
|-----------------------|-------------------------------------|
| 町 民 (事業所、地域、団体等) | 行 政 (町、県、国) |
| ● 恋活イベントの計画・実施 (関係団体) | ● 恋活セミナーの企画・調整・実施 (町) ● 関係団体との調整 |

施策 関係課 12 東部圏域を以て 連携による移住

実施方針 同じ課題解決に向けて、東部圏域を中心とした連携事業を積極的に推進。特に移住定住のPR及び観光に関しては、連携することで費用対効果が期待され、今後の連携事業に繋がる。

目標 (KPI) 平成31年度まで
 ▶ 観光入り込み客 **181,273人 (H26) → 200,000人/年 (目標)**
 ▶ 移住者数 **30人 (目標)**

具体的な事業内容とイメージ

- 広域観光
 ・グランドデザインの策定
 ・連携強化
 ・観光NW
 ・因幡地域周遊バスGバス
- 移住定住関係
 ・1市6町移住定住イベント
 ・移住定住用パンフレット作成
 ・おためし住宅PRパンフレット

役割分担

| | |
|-------------------------------|------------------------------|
| 町 民 (事業所、地域、団体等) | 行 政 (町、県、国) |
| ● 移住イベントへの出店及び参加 (移住者・観光協会など) | ● イベントの企画・調整 ● 旅費等の支援及び調整 |